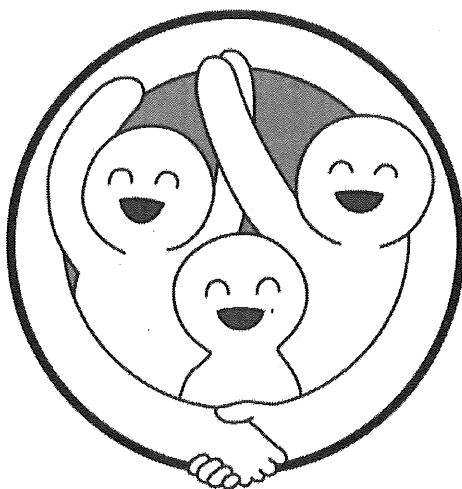


第3次愛荘町地域福祉活動計画プロジェクト活動 中間評価について

(計画期間 令和4年4月～令和9年3月)



愛荘町地域福祉活動計画推進委員会
社会福祉法人愛荘町社会福祉協議会

見守り・居場所プロジェクト 3年間のまとめ

取組の名称	取組み内容・活動状況	成果・課題	プロジェクト取り組み内容 (a. b. c 等)
推進委員会	令和4年度 推進委員 9名 委員会 4回 (参加者 延34名) 令和5年度 推進委員 9名 委員会 5回 (参加者 延44名) 令和6年度 推進委員 9名 委員会 5回 (参加者 延37名)		
自治会のサロン等の実態把握をするためアンケートを実施	令和4年3月5日 区長様にアンケートを送付町内61自治会中、41自治会から返答あり。	アンケートの結果を見て、様々な課題が浮き彫りとなり、その課題にあったサポートができる冊子を作成していくことにつながった。	b
サロン見学と聞き取り	開催しているサロン7か所に各委員が手分けをして視察と聴き取りを行った。	見学をしたサロンの様子を冊子の中に盛り込めるようになった。	b
「たのしい あつまり いばしよ塾」の開催	令和6年度中に3回、サロン等を支援する方の横のつながりを作ることに、新たなあつまりを作るためのきっかけになればと思い、開催した。	サロンをされている方同士の情報交換や、サロンを開催したいと思って参加した方が、サロン開催に向けて動き出した。	b、c
町内事業所や個人の方等地域貢献についての情報収集	各プロジェクト委員が情報収集した地域貢献活動に取り組みたい事業所様や、個人で特技等を持っており、今後地域に関わりたい方を調べ、まとめた。	町内事業所との関係づくりや、地域とつながりを持ちたい方の把握が出来た。	b、c

◇今後の取り組みに向けて

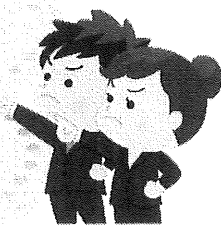
5年目（最終年度）の目標（到達点）	課題となること
・住民主体の居場所づくりができる地域をふやす 1～3年目はコロナ禍で減少した各自治会のサロン活動や居場所づくりができるよう「たのしい あつまり いばしよ塾」（交流の場）を令和6年度3回開催し、参加された方の地域でいくつか新たに居場所ができました。 地域サロン等に役立つ冊子づくりを行い、居場所作りを応援してくださる方の発掘や、社協貸出備品のバリエーションを増やす等、居場所に関わる方の負担を少しでも減らし、これまでから取り組みまれている居場所が継続できるように、また新たな居場所作りに住民主体として取り組みめるように支援していきま	・「たのしい あつまり いばしよ塾」の継続的開催に向けて社協の体制づくり プロジェクトメンバーは変わっていくので、今後は社協の居場所支援事業として進めていけるようにするこ
・見守りサポート会議 居場所を増やすことで見守り活動が充実すると考えて今まで取り組んできましたが、住民が互いに見守り活動できるような取り組みも必要です。「見守りサポート会議」を通して、自治会の課題を住民が主体となり検討できる場として進められるよう支援します。	・自治会役員や民生委員との協力体制が必要 自治会での見守り体制が充実することが大変重要になる。自治会役員や民生委員・児童委員のみさんに見守りサポート会議の目的をわかりやすく伝え、住民が主体となる活動を知っていただくこと。
・見守り訪問や見守り活動の見直し 現在見守り訪問や見守り活動は民生委員・児童委員や各自治会の役員がその役割を担っているところが多いが、地域のみんなができる見守り活動のしくみを検討して実施します。	・各自治会で支援（見守り）する人の意見が反映されるしくみを作る 各自治会での見守りサポート会議の進め方に関わって くるが、プロジェクトで見直した見守り活動を進めてい ただけるように、自治会役員の方、民生委員・児童委員 さん・そして見守りを必要とする方との協力体制を作っ ていくこと。

見守り・居場所プロジェクト 取り組み報告



★本プロジェクトの最終目標★

SOS を出せない方が SOS を出せるよう、
近隣のみんなが SOS をキャッチできるようなしくみを作る



★次年度に向けて★

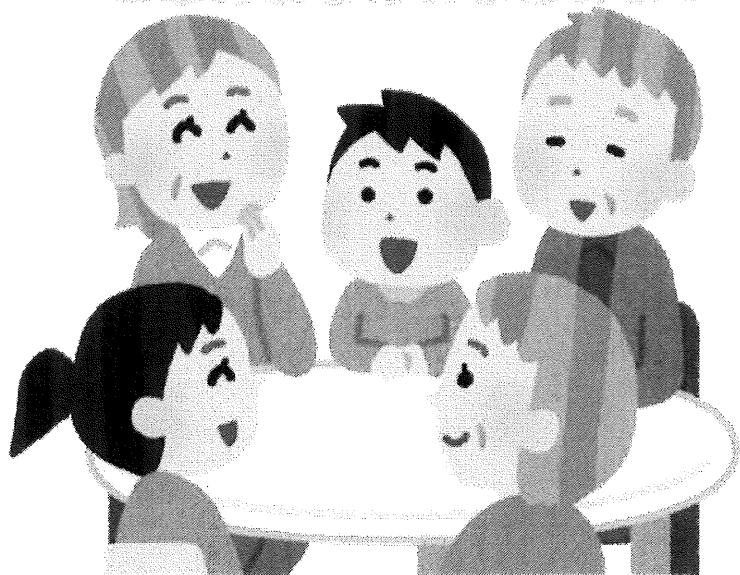


①居場所を運営したい人・運営 している人の居場所を作る (思いをつなげる居場所塾)

→次年度以降に話し合い、
取り組んでいく

③地域で居場所をしてくれる人を増やす

→出前サロンなどを通して、サロンを立ち上げた
くても立ち上げられない自治会等のサポート



②企業や福祉施設へ出向き、地域と一緒に 出来そうなことなどを聴き取り、みなさんへ 情報提供できるようにする

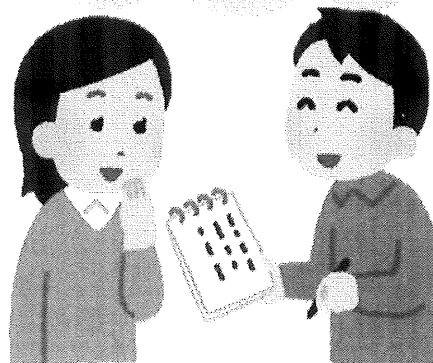
→自治会で取り組まれているサロンの実態
アンケート調査を行う

(令和5年3月より実施中)

そのアンケート結果をもとに、

出前サロンの内容等考え、開催する。

※内容については、企業・福祉施設等が関わ
っていただけるような取り組みを考える



出前サロンって??

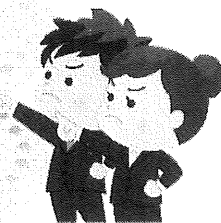
どのように開催したいか等を
相談しながら本プロジェクトで
サロンを検討している地域に出
向き、サロンの開催に向けて一
緒に催し等を行います!!

見守り・居場所プロジェクト 令和5年度取り組み報告



★本プロジェクトの最終目標★

SOSを出せない方がSOSを出せるよう、
近隣のみんながSOSをキャッチできるようなしくみを作る

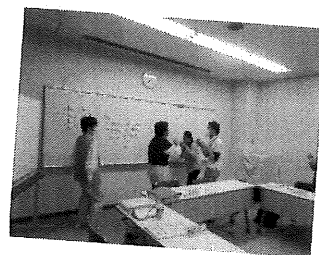


令和5年度に取り組んだこと

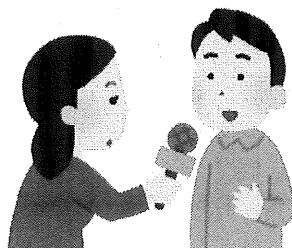
1



町内自治会に、サロンの現状のアンケートを行い、プロジェクトメンバーで整理
(別紙参照)



2

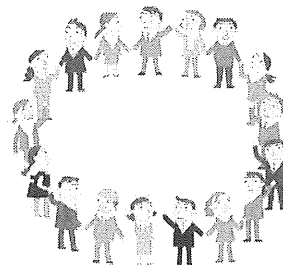


実施されている自治会のサロン見学・アンケートで「サロンを開催したいができない」という磯部自治会へ聴き取り

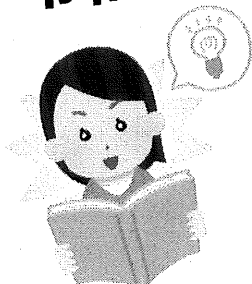
※話を聞いた結果、自治会の中でサロンを開催する必要性があるとは今の状況では感じられないとのご意見をいただき、出前サロン等の提案は至らなかった。

3

サロン立ち上げを考えている・開催している自治会に役立つための冊子の作成と、サロンをしている方の横のつながりづくりとして、「居場所塾」の開催を目指す！



令和6年度に向けて



令和6年4月25日に「居場所塾」を開催する！！
サロンに役立つ冊子づくりを進める！！

サロンの良さ

- ・各々の皆様が出来る事を出来る様に活動しておられる様ですが参加者は楽しんでおられ何よりです。
- ・開催側も参加する側も楽しいからする。元気に出来るからする。という気持ちが始まり？
- ・サロンの、気になる方のご様子が聞けたら、見に寄ってみようか等、市民の繋がりになるのかも。
- ・地域の中で認知症の人もそうでない人も支え合っている。この思いがみんなに浸透するといふ。
- ・サロン参加者は、毎回楽しみにしておられたり、とても喜んでおられる声がたくさんある。
- ・デイサービスでもサロンの参加が楽しいので、そちらを優先される方もおられます。
- ・昔からのなじみの方との会話は、やはりとても嬉しいものなのではないでしょうか。
- ・思っていたことと、サロンに行き違っていた。参加多かった。楽しそう。
- ・主体性
- ・参加者が主体性を持つように。
- ・参加者がよければいい (サロン開催)

目的 (サロンをやる)

- ・サロンは集まる場だけで良いのか？
- ・高齢者サロンは何のためにする。
- ・今後の自分達の事も含めサロンの必要性を皆様にお伝えする機会を持つ事が大事。

プロジェクト推進委員の私たちが大切にすること！

- ・地域の人と出会う♡
- ・地域で人とつながることが大事♡
- ・みんながあつまるところ (おしゃべりしたり何かする)

サロンをすすめるために

課題!!!

- ◎スタッフのこと
 - ・スタッフの人員確保が課題
 - ・サロンの活動者同士の情報交換の支援必要
- ・モデルケースとして何か取組みを始めてみては？
- ・参加者はおられるのにスタッフが0!!自治会の方が活動されているみたいですが支援が必要ではないのか心配。
- ・対象人数にもよりますがスタッフは少数でも活動されておられる事がわかった。
- ・ボランティアさんの次の成り手がいない。スタッフの人員確保が難しい事が課題。
- ・サロンの人員確保、回覧板等はどうするか？すぐに使えるような例などあるといいのかな？
- ・スタッフの人材確保
- ・スタッフ不足、高齢化どうしたらいいかな～
- ・高齢化
- ◎サロンの形
 - ・「月に一度 地域包括支援センターから脳トレ用紙を頂き」とあるが、こういうところも共有できれば良いと思う。(コロナで止めてしまった地域にも)
 - ・配布形式のサロンが増えている。

◎開催内容

- ・名所見学、工場見学→地域をもっと知る、ということが企業としては協力しやすいです。企業側からしても地域の方に何を求めている会社かを知っていただきたいなと思っています。(距離感を縮めたいです。)
- ・僅し物に苦労→担い手負担
- ・今後のサロン活動内容を考えて行くのが難しい。毎回の企画が大変である。

◎サロンの仕方

- ・定期的なサロンとは別日で、男性に特化したサロンなどざらえているところもあるでしょうか。・・・料理・将棋・囲碁など？
- ・桑名地域はサロンの活動を積極的にされていて良いと感じました。特に1月16日を日曜日に定めておられると続けやすいと思います。
- ・毎月、日祝関係なく日を定めておられることが忘れにくく、参加人数が集まりやすいのかな？
- ・まず、お年寄りの方の気持ちに寄り添って進めて行く。参加したいという意欲をもちあげていってあげよう。

◎仲間づくり・情報交換

- ・サロン活動者同士の情報交換が必要



この課題がクリアになったら、参考になるような情報！

サロンサポーター総子

- ・サロンの手引きがあるのも良いと思った。
- ・サロンをサポーター出来る団体のパンフレット (紹介用) 作成する。
- ・サロン関係者側の声を見やすい冊子にしてあるといいのかな？
- ・サロンの日の「ある一日の流れ」のような物が例としていくつか見られるとイメージしやすくなるかも？
- ・(時間・人員・こうしたら良かった・うまくいった箇所など)
- ・サロンを開催していない理由でコロナでやめてしまった自治会に他の自治会の情報を共有するのは有効だと思う。
- ・サロンをパッケージとして提供してほしい。
- ・用意されたパッケージがあれば始められやすい。
- ・このアンケート集計は回答してくださった集落にも知らせるべき。(集落名は消して) 各集落で参考にされることも見つかるかも・・・

こんな風にしよう！

利用できよう！

良いところ・目的も伝える！

サロンはじまってから

継続することが大切である。

必要なし

- ・気の合う人が近所について話をしていたら、サロンをする必要はない。
- ・サロンに関心がない方がいる。制度やサービスがあるから・・・
- ・サロン以外の居場所がある。
- ・新興住宅街でのサロンの開催をより難しいものがあると感じた。



◎サロンの見学

見学 OK の自治会から見学させてもらってはどうか。

サポーターしたら動きそう！

- ・出前サロン等、あと押しをしただけならサロンの実施にむけて動き出すかも・・・。
- ・やろうと思う方と反対意見の方もあり、開催できない。
- ・反対意見の内容は？
- ・メリットの方が多くないと開催につながる？
- ・地区の役員さんの気持ち次第で前にすすむか、一歩が出ないか・・・
- ・活動自体が見出せない為、社協の助言等をお願いしたい。

実態 コロナのこと

- ・コロナの心配
- ・新型コロナウイルス感染症対策で、食事なし・マスク着用等制限がたくさんあり、ボランティアさんも参加者も苦労されている。
- ・コロナ禍であっても、スタッフ1人でやっておられる自治会があり、たのしい限り。
- ・コロナによる心配が一定数あり、その中で、飲食はなし、というのが良いと思います。

コロナのサポーター

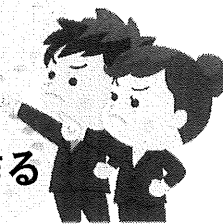
- ・コロナ対策について、まとめたものを各自治体に配布してみようか。

見守り・居場所プロジェクト 令和6年度上半期取り組み報告



★本プロジェクトの最終目標★

SOSを出せない方がSOSを出せるよう、
近隣のみんながSOSをキャッチできるようなしくみを作る



令和6年度の目標

令和6年4月25日に「居場所塾」を開催する！！
サロンに役立つ冊子づくりを進める！！

令和6年度上半期に取り組んだこと

4月25日、6月28日、9月27日に、
「たのしい あつまり いばしょ塾」を開催。

★
4/25
★



- ・他自治会のサロンについての報告
- ・ゲーム、レクリエーション
- ・おしゃべり会
- ・見守りに使えるものの分配

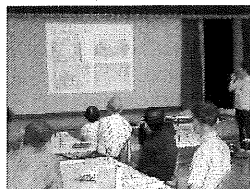
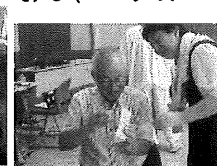
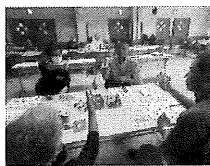
★
6/28
★

- ・他自治会のサロンで盛り上がったレクリエーションのモチより、体験
- ・おしゃべり会



★
9/27
★

- ・協力事業所さまからいただいたものでものづくり
- ・町内事業所さま等の地域で活用できるものご紹介
- ・おしゃべり会



★
下半期にむけて
★

サロンに役立つ冊子を
作成するために...

- ☆町内事業所さまなどの地域貢献活動を調べる
- ☆福祉施設さまにしてもらえそうな出前講座等の情報を調べる

「くらしサポートプロジェクト 3年間のまとめ」

取組の名称	取組み内容・活動状況	成果・課題	プロジェクト取組 み内容 (a. b. c 等)
推進委員会	令和4年度 推進委員 4名 委員会 4回 (参加者 延29名) 令和5年度 推進委員 4名 委員会 3回 (参加者 延23名) 令和6年度 推進委員 4名 委員会 2回 (参加者 延7名)		
地域福祉活動者 との意見交換会	「地域での困りごとや相談に対する課題について」をテーマにした地域福祉活動者 (民生委員 08) との意見交換会を2回に分けて実施した。 1回目：令和5年2月20日 (月) 実施 (7名参加) 2回目：令和5年2月27日 (月) 実施 (7名参加) ★主な聴き取り内容 ・地域の方からの相談に対して感じた課題は何ですか？ ・どのようにして地域の方からの困りごとをつかんでおられますか？ ・コロナ前と比較して、地域はどのように変わりましたか？	民生委員として活動されていて感じていた課題として、以下の2点が挙げられた。 ① 相談する必要性があると思う方は、自分から相談に来られない。 ② 地域の情報をつかむためには、民生委員だけではなく、周りの地域の方の協力が必要になる。これらの課題から、地域での相談窓口を作るためのしくみを考えていくこととなった。	a. b
民生委員・児童委員との意見交換会	「地域での相談窓口について」をテーマにした民生委員・児童委員との意見交換会を地域ごとに2回に分けて実施した。 (東円堂地域)：令和6年1月30日 (火) 実施 (7名参加) (豊満地域)：令和6年2月15日 (木) 実施 (7名参加) ★主な聴き取り内容 ・地域で相談につながない方はおられますか？ ・どのようにして地域の方からの困りごとをつかんでおられますか？	意見交換会を終えて感じたこととして、以下の2点が挙げられた。 ① 地域の高齢者の方について、活動状況の話を聴くことができたが、子どもや障がいのある方の話題があまり出てこなかった。 ② 地域のコミュニティーについての話題もあまり出てこなかった。	a. b

子ども・若者サポートに携わる方々との意見交換会	・地域で情報をつかんでいる方はおられますか？ ・活動されている中で、支障に感じていることや課題はありますか？ 「子どもや若者の困りごとをみんなで考えていくためにどうしたらいいの？」を起点とした意見交換会を2回に分けて実施した。 1回目：令和6年11月1日（金）実施（12名参加） 2回目：令和7年1月17日（金）実施（8名参加） ★テーマとなった内容（1回目） ・子どもや若者は相談したいと思っているのか？ ・子ども・若者自身にとって相談しやすい窓口とは？（2回目） ・子どもが相談しやすい環境とは？ ・心理的安全性がある場とは？	た。 これから、次の聴き取りの対象を「子ども・子育て世代」に絞り、相談窓口をテーマにしたヒアリングを行うこと、地域のコミュニティの発掘と情報収集を行うこととなった。 子ども・若者のサポートに携わる方々から、日頃されている活動から感じておられることを聞くことができた。 a. b	
--------------------------------	--	--	--

◇今後の取り組みに向けて

5 年目（最終年度）の目標（到達点）	課題となること
★誰もが安心して利用できる相談窓口をつくります ・子ども・若者世代が相談しやすい環境づくり ⇒地域で相談しやすい環境が作れるようにする。 - 既存の相談窓口（社協や行政・民生委員など）だけではなく、地域での相談窓口を増やし、みんなが最初の相談窓口になる仕組みがつけられるようにする。 ・地域活動者と社協のつながる場づくり ⇒本プロジェクトで実施した【子ども・若者サポートに携わる方々との意見交換会】のように、テーマごとに活動されている地域活動者と協働する場づくりを行う。	・地域のコミュニティの発掘と情報収集 地域での相談窓口となり得る地域コミュニティについて、社協で把握しきれていない部分があるため、情報収集を行っていく必要がある。

くらしサポートプロジェクト

令和4年度の取り組みについて



☆くらしサポートプロジェクトでは、3つの取り組み内容のうち、
「b. 誰もが身近で安心して利用できる相談窓口をつくります」から
取り組みをはじめました。

☆「相談」をキーワードに話し合いを重ねていくうちに、
相談と地域のつながりという言葉が出てきました。



- ・地域の方とのつながりを日ごろから持っていない方は、
いざ困った時に、どうやって助けを求めたらいいの？
- ・地域で活動されている方（民生委員・ボランティアなど）が
地域の方の困りごとを聞いた時に、どこにつなげていけばいいの？

⇒そこで、相談に対する課題を具体的に考えていくために、
地域で民生委員として活動されていた方々にお話を聞きました。

☆民生委員の方が感じられていた主な課題

- ①相談する必要性があると思う方は、自分から相談に来られない。
- ②地域の情報をつかむためには、民生委員だけではなく、
周りの地域の方の協力が必要！！



これらの課題を受けて、

来年度以降の取り組み内容は…

【地域での心配ごと相談所(地域窓口)を
作れるように取り組みます！！】

☆地域で相談しやすい環境がつかれるように！

☆周囲が困りごとに気づくことができるように！

既存の相談窓口（社協や行政、民生委員など）だけでなく、
地域での相談窓口（活動者・サロン・事業所など）を増やし、
みんなが最初の相談窓口になる仕組みをつくれるように、
くらしサポートプロジェクトで検討していきます😊



令和5年度「くらしサポートプロジェクト」 取り組み報告

～今年度の取り組み内容～



★地域での相談窓口が作れるように取り組みを行う。

⇒地域で相談しやすい環境が作れるように、周囲が困りごとに気づくように、
地域での相談窓口を増やすことができるような取り組みを検討する。

～今年度に取り組んだこと～

①地域での相談窓口を設置するために、どのようにしたらいいのかを検討しました😊

★地域住民のみなさんと相談窓口について話す場を作ることから始める。

⇒話す場づくりのために、地域についてよく知っている方に情報収集を行う。

②民生委員さんとの意見交換会を実施しました😊

東円堂地域・豊満地域・斧磨地域の3つの地域の民生委員さんに、日ごろの活動のことや、
地域での困りごとのキャッチの仕方など、お話をうかがいました。

★意見交換会を終えて感じたこと

・地域の高齢者の方については話を聞くことができたが、子どもや障がいのある方の話題は
あまり出てこなかった。

⇒子ども…新興住宅地が増加し、子どもの数が増えているので把握が難しい。

障がいのある方…自ら民生委員さんに相談されることが難しい。

・地域のコミュニティーについての話題があまり出てこなかった。

⇒自治会の取り組みの他に、地域にどのようなコミュニティーがあるのかを調べていく
必要がある。

～来年度の取り組み内容～

★聞き取りの対象を「子育て・子ども世代」などに絞り、

「相談窓口」をテーマにしたヒアリングを行います😊

⇒民生委員さんとの意見交換会であまり話題にあがってこなかった「子育て・子ども世代」にとって、どのようにしたら「相談しやすい」のかを聞き取り、本プロジェクトで検討していく。

★地域でのコミュニティの発掘と情報収集を行います😊

⇒「子育て・子ども世代」へのヒアリングに向けて、地域のコミュニティ（子ども食堂・不登校等の児童生徒の居場所づくりなど）について、活動者の発掘や情報収集を行う。



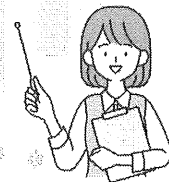
令和6年度 暮らしサポートプロジェクト 進捗報告



～今年度の取り組み内容～

★地域の相談窓口をつくるために…

- ① 聴き取りの対象を「子ども・若者世代」に絞り、聞き取りを行います。
- ② 地域でのコミュニティの発掘と情報収集を行います。



～今年度のプロジェクトにて検討を行っていること～

① 「子育て・子ども世代」への聞き取りについて

⇒愛荘町にて、【就学前児童・小学生保護者】【小中学生】【高校生】を対象にしたアンケート調査を実施されていました。

・アンケート項目の中には、【悩みや不安を感じた時の相談先】に関する項目があったが、【親・兄弟・友人】など身近な方に相談をされている方が多い印象でした。

・相談する相手がいないと答えている方が1割程度おられました。

② 地域のコミュニティの発掘と情報収集について

★子育て・子ども世代のサポートに携わっている方々に集まっていただき、話をする場を設けます。

<参加を依頼している方々>

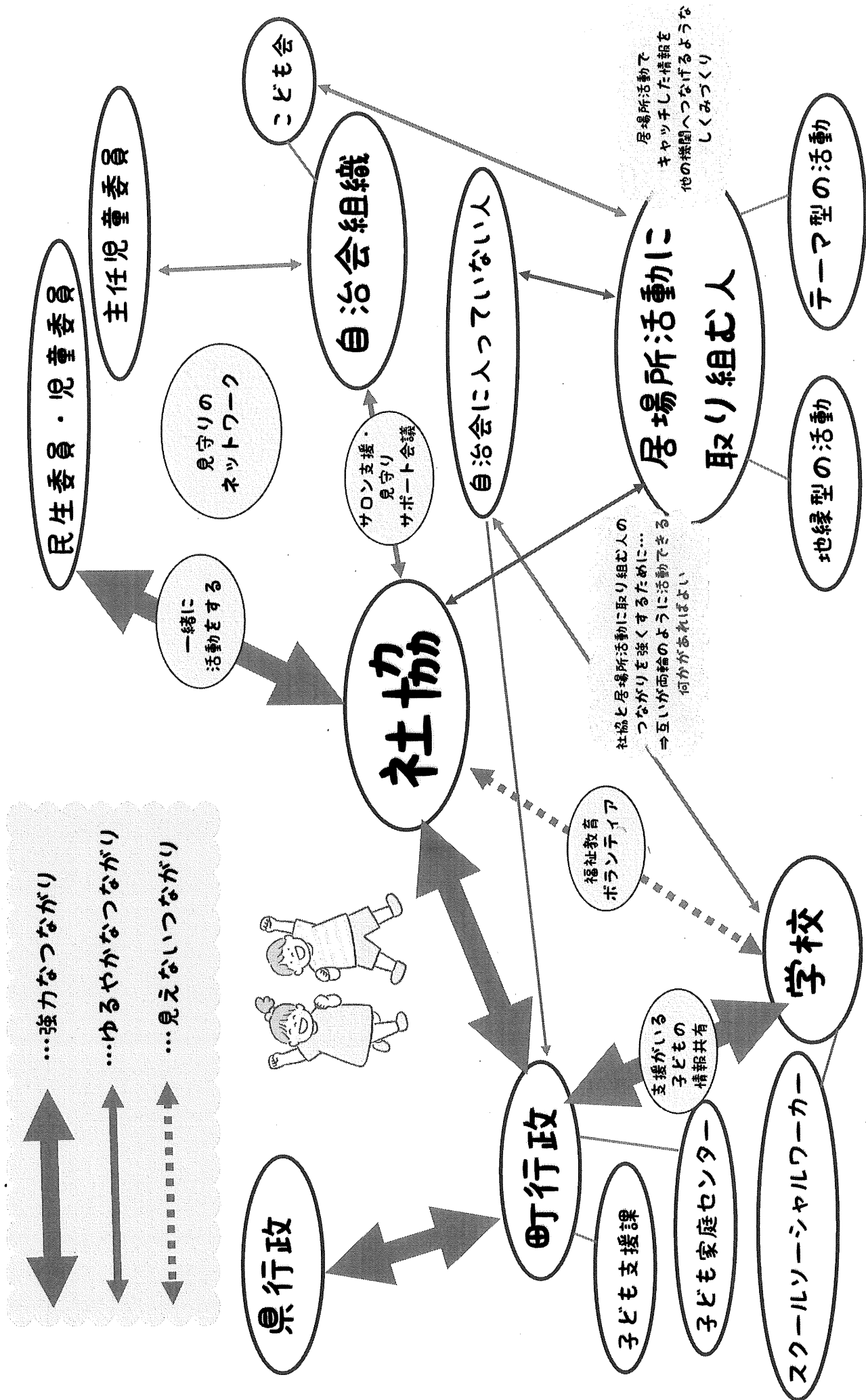
- ・地域おこし協力隊 綿谷 駒太郎さん
- ・ぱらでいる 原 一晃さん
- ・トーキョーコーヒー愛荘 青木 瑞希さん
- ・あんぱくひろば保育士



⇒今後の取り組みとしては、

【子どもや若者の困りごとをみんなと考えていくために、どのような取り組みが必要か】をテーマに上記の方々とプロジェクト委員のみなさんと一緒に、話し合いを行っていきたいと思います。

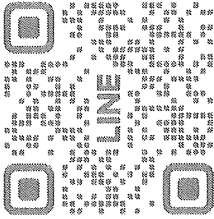
【テーマ：子ども・若者が相談しやすい仕組みづくり】



「福祉を伝えるプロジェクト」

取組の名称	取組み内容・活動状況	成果・課題	プロジェクト取り組み内容 (a.b.c 等)
推進会議・小会議・職員会議の開催	(記載内容) 令和4年度 推進委員4名 開催数8回(参加者47名) 令和5年度 推進委員4名 開催数12回(参加者63名) 令和6年度 推進委員4名 開催数4回(参加者13名) 推進委員が思う愛荘町の福祉課題を自由に出してもらい、課題解決の方法を検討した。 令和5年度には、「体験型交流を検討する」「座学型の学習の機会を検討する」、この2つを発信する「SNSでの発信を検討する」という3つのグループに分かれ検討した。 福祉の当事者(障がい、外国籍、LGBTQ、高齢者、引きこもりの5つの福祉課題を想定)にも関わっていた。大きくことの検討進めた。 福祉の当事者(障がい、外国籍、LGBTQ、高齢者、引きこもりの5つの福祉課題を想定)にも関わっていた。大きくようにしたい。	令和4年度には、五年後の目標のキーワードを「地域共生」として、取り組み内容の整理を行い「福祉を見つける座談会」と「福祉体験型活動」という手法で検討。 「福祉コミュニティ親の会(町内障がい者家族団体)」に意見を傾聴したところ、学校で知的障がい・発達障がい伝えて欲しいとの意見が出た。この意見と「座学型の学習の機会を検討する」を合わせて、発達障がい体験講座を考えることになった。 「体験型交流を検討する」については、サントナ学園と町内の小学生との交流を2年続けて社協事業内で取り組みのだが、サントナ学園との思いを事業化が難しく継続できなかった。 取り組み内容cの「子どもたちの福祉学習をみんな(町内の学校や自治会・関係機関・団体など)で協力します」については、「発達障がい」を児童に伝えることと心理的な難しさあることを学校から聞き取る。	a・c

新たな福祉教育 メニユー 「発達障がい体験講座」	① 茅ヶ崎いんくる隊への聞き取り 実施時期：令和5年10月 きっかけ：町内に住んでいる障がい者と地域との隔たりを感じている推進委員の意見から、単なる座学では無い、障がいについての新しい学び・交流の機会を作れないかとの意見から、活動をされているところの調査から始める。 ② 福祉コミュニティ親の会での意見の聴き取り・協力依頼 実施時期：令和6年5月 ③ 学校の教員への協力依頼 実施時期：令和6年11月 ④ 福祉ふれあい講座で大人向けに実施（体験学習の時間を設けて行う。） 実施時期：令和7年2月	① 神奈川県にある知的障がい・発達障がいの啓発団体「茅ヶ崎いんくる隊」の取り組みを参考にするためZOOMでインタビューを実施。 啓発講座の手法、対象者、活動のいささつ、茅ヶ崎市での普及啓発の課題を聞き取り、体験講座を作成する際の土台となった。 ② 福祉コミュニティ親の会にて意見を聴き取り、啓発活動に協力してもらえないか提案した。発達障がいについて、学校で教えて欲しいとの依頼を聴く。 ③ 推進委員と事務局で愛知川小学校に同じプロジェクトの主旨と取り組み案を説明。 教員・実習生18名の研修として実施する。研修後アンケートにて好評な意見が多数もらう。 ④ 16名の講師・参加者に体験してもらった。発達障がい児へ配慮したヘアカット「スマイルカット」の講演の導入として役立った。 課題：講座を実施する機会の開拓、一緒に啓発に参加してくれる人の開拓。	a
---	--	--	----------

地域福祉活動を発信する場「LINE 社協公式アカウント」	① 社協でLINE 公式アカウントを取得し、社協情報発信や地域福祉活動の広報・周知に利用できる仕組みにした。 きっかけ：推進委員の「行政や団体が発信している情報の発信に協力する」という意見を参考に他市町の広報方法を調べる。 ② 一般公開 	① 社協のアカウントを他団体でも情報発信に利用できるように、町生涯学習課で実施されている「みんなのデジタル掲示板」と連携をすることで申請手続きを利用しやすくした。 ② 令和 7 年 2 月から一般公開。現在は社協ホームページのお知らせを定期的に配信している。2 月下旬時点で外部登録者は約 40 名。 課題：登録者数を増やす工夫。	b
-------------------------------------	---	--	----------

◇今後の取り組みに向けて

【5 年目（最終年度）の目標（到達点）】 ① 発達障がいの子どもの体験講座を町内の学校教員の皆様に普及し、子どもに伝えていくために学校との連携を強化します。 また、体験学習を学校から子どもに伝えることで親世代に伝えていくことや、地域住民へ伝えることで当事者への理解が高まり地域共生のまちづくりを進めていきます。 当事者の家族にも活動に参加してもらう。 →活動を通じて発達障がい当事者が、生活しやすい学校・町にしていける。 ② LINE 登録者数 200 人以上 （目安：竜王町社協が約 230 人、野洲市社協が約 120 人、湖南市社協が約 160 人）	【課題となること】 ① 講座を実施する機会と一緒に啓発に参加してくれる人の開拓。 子どもに伝えることに対する同世代の当事者を持つ親や、学校で子どもたちに体験学習をおこなう不安要素をどのように解決していくか。 子どもたちに発達障がいをどう伝えると理解してもらえるか。 ② 登録者数を増加させるための取り組み。
---	--

令和4年度の「福祉を伝えるプロジェクト」

5年後の目標

キーワード「共生社会」

取り組み a 福祉を学べる・体験できる場づくりをさらに増やします

c 子どもたちの福祉学習をみんな（町内の学校や自治会・関係機関・団体など）で協力します

aとcは一体で考えていく

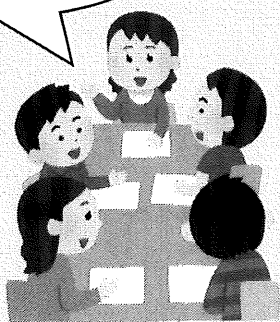
『福祉を身近に感じる機会をつくる』

取り組み b 若い世代の福祉への関心を高めます

『福祉意識の芽生えとなる福祉情報を
SNS 等を通じて発信する』

委員の意見を取り入れ、
サンタナ学園との交流
イベントを企画しました！

検討中です



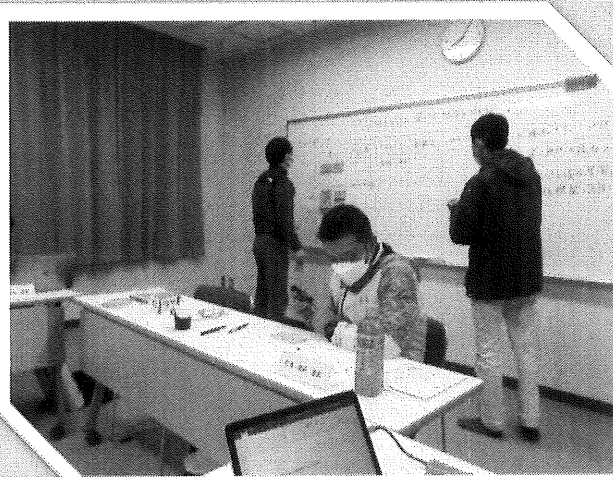
福祉を見つける座談会



福祉体験型活動

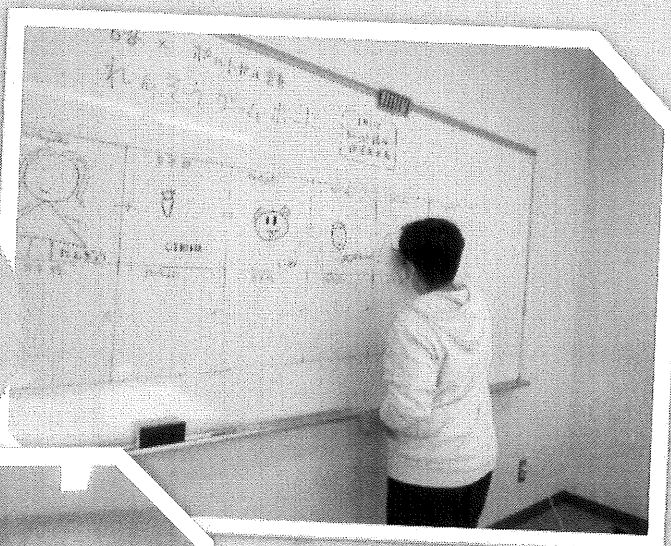
＜今年度の到達点＞取り組み内容を整理しました

	障がい	多国籍	LGBTQ	高齢者	ひきこもり
研修 (座学)					
研修 (体験)					
調査・ 情報発信					
SNS	優先度(高い)				



**福祉を伝える
プロジェクトを
振り返る**

**みんなで莓大福と
ブリザディロをつくり
ました！**



**あいしょうワールド
スイーツ交換会**

令和 5 年度「福祉を伝えるプロジェクト」進捗報告

5年後の目標

キーワード「共生社会」

a と c は一体で考えていく

取り組み a 福祉を学べる・体験できる場づくりをさらに増やします

c 子どもたちの福祉学習をみんな（町内の学校や自治会・関係機関・団体など）で協力します

『福祉を身近に感じる機会をつくる』

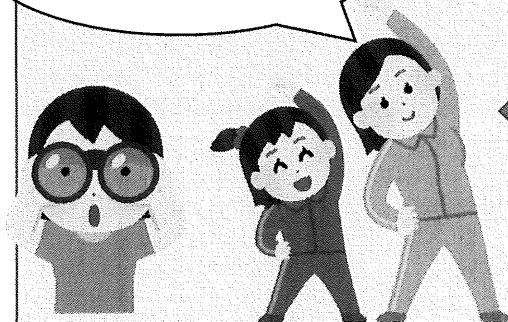
取り組み b 若い世代の福祉への関心を高めます

『福祉意識の芽生えとなる福祉情報を SNS 等を通じて発信する』



講座で学ぶ形式、イベントで交流する形式、SNS 発信の 3 つについて委員が分担して検討しましょう！

目に見えない障がい
を体験できるように
企画中！

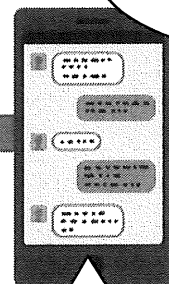


知的障がい・自閉症の啓発講座

今年度もサントナ学園の
生徒さんとコラボ実現！



当事者と体験型交流で伝える



LINE の活用
を予定

来年度は

愛荘町福祉コミュニティ親の会

町内 4 小学校

とコラボできないか検討中です！

知的障がい・自閉症の啓発講座の進捗状況

昨年度の当プロジェクトで「障がい福祉サービス利用者と地域との隔たりがあり、地域のキーパーソンとなる人をつくりたい」と意見出し

↓

今年度前半に知的障がい・精神障がいの啓発についての先行事例を調べる
(茅ヶ崎市社協・茅ヶ崎いんくる隊にインタビュー実施)

↓

標語「みんなに伝わらないこころのバリアフリーを伝える」に決め、疑似体験の用意は整う

↓

現在の課題

- ・疑似体験を授業で採用してもらえるのか？
- ・疑似体験を通じて何を伝えたいかを障がい当事者と一緒に考えたいが、協力してもらえるか？

SNS を使った発信の進捗状況

- ・愛荘町社協の公式 LINE を 4 月に開設予定
- ・推進委員を中心にユーザー側の視点から意見をもらう試験的運営を計画

当事者との体験型交流の進捗状況

- ・知的障がいや精神障がい当事者との体験交流を計画するには当事者団体の協力、参加者の障がい特性の理解を広げる必要があり啓発講座の進捗を待つ必要がある
- ・今後もサンタナ学園との交流体験事業は継続していきたい

令和 6 年度「福祉を伝えるプロジェクト」進捗報告

キーワード「共生社会」

a と c は一体で考えていく

取り組み a 福祉を学べる・体験できる場づくりをさらに増やします

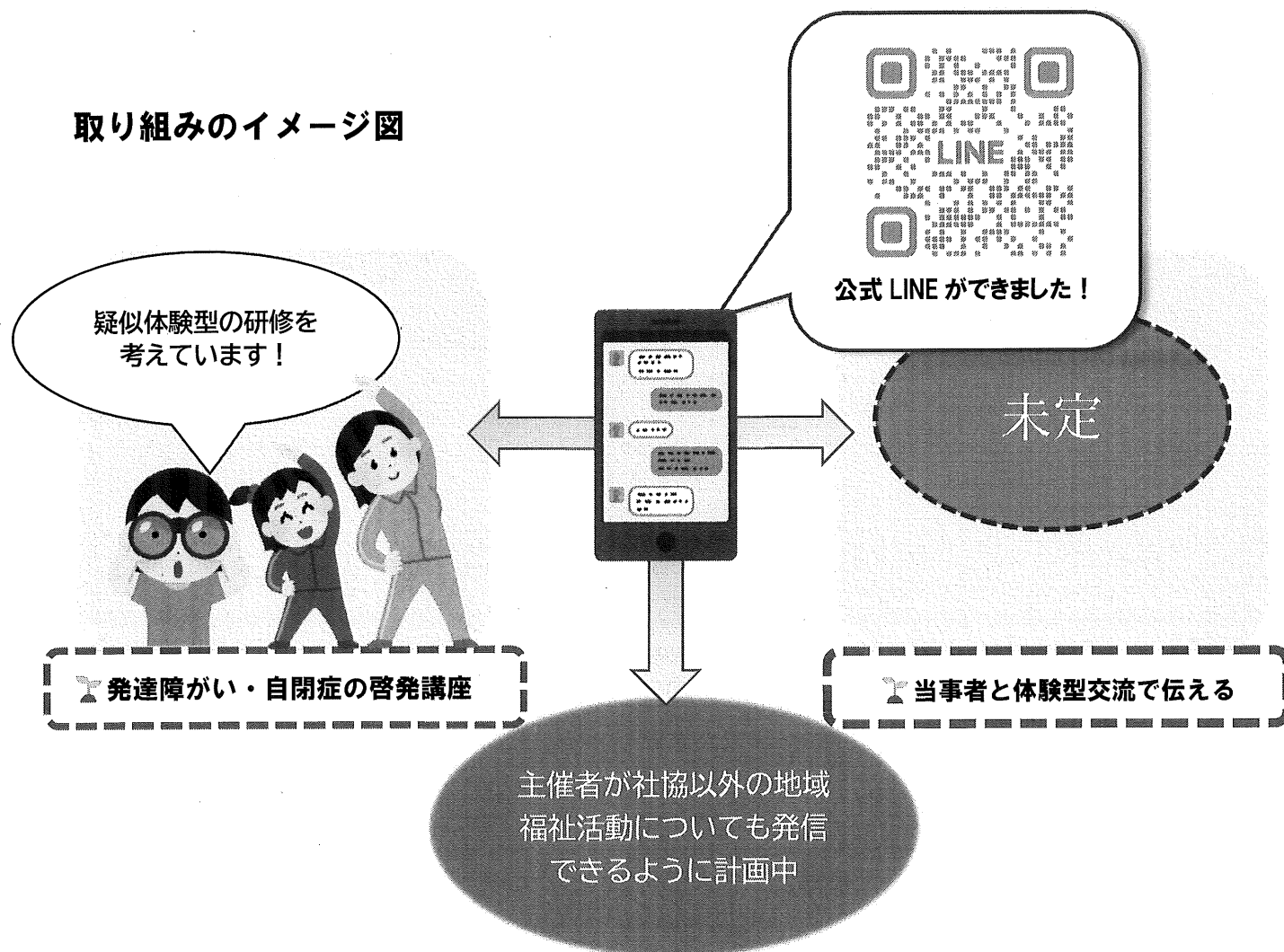
c 子どもたちの福祉学習をみんな（町内の学校や自治会・関係機関・団体など）で協力します

『福祉を身近に感じる機会をつくる』

取り組み b 若い世代の福祉への関心を高めます

『福祉意識の芽生えとなる福祉情報を SNS 等を通じて発信する』

取り組みのイメージ図



発達障がい・自閉症の啓発講座の進捗

疑似体験型の研修を学校で実施し、子どもたちや子育て世代を通じて地域に理解が広げられることをプロジェクトの方向性としてまとめる

4 月 福祉教育連絡会議にて現職教員に提案する



5 月 愛荘町福祉コミュニティー親の会にて協力依頼する

教員向けの研修として採用されるべく方針修正

7 月 校長園長会にて提案する

10 月 愛知川小学校にて提案する

教員の研修として使える内容なのか実演して意見を求めたいと要望した

SNS を使った発信の進捗

- ・愛荘町社協の公式 LINE は来年度、正式に公開予定
- ・主催者が社協以外の地域福祉活動についても発信できるように計画中

福祉防災プロジェクト 3年間のまとめ

究極ゴール『誰も取り残さない地域』の実現!!!

取組の名称	取組み内容・活動状況	成果・課題	プロジェクト取組み内容 (a, b, c 等)
①推進委員会	①推進委員会 ●令和4年度:委員会4回・推進委員数5名・職員チーム数5名 (第1回:7月19日 出席者7名、第2回:8月18日 出席者9名、第3回:1月17日 出席者8名、第4回:3月24日 出席者8名) ●令和5年度:委員会2回・推進委員数4名・職員チーム数5名 (第1回:5月16日 出席者8名、第2回:9月26日 出席者8名) ●令和6年度:委員会3回・推進委員数4名・職員チーム数5名 (第1回:7月18日 出席者7名、第2回:9月10日 出席者6名、第3回:2月21日 出席者6名)		
②到達目標のイメージ図作成	②到達目標のイメージ図作成【令和4年度】 ・究極ゴール『誰も取り残さない地域』の実現のため、5つのステップの中間ゴールを設定し、本プロジェクト推進の構想をまとめる。	②本プロジェクトの取り組みイメージを推進委員と検討し、今後の推進方針を共有できた。	
③町くらし環境安全課への聞き取り	③町くらし環境安全課への聞き取り【令和4年度】 ・令和5年1月23日:出席者4名 ・自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査実施に向けた確認と共有。	③アンケートへのアイデア等、町担当課と共有・連携し、準備を進めることができた。	③ a・b・c
④長野西自治会 区民防災訓練への見学参加	④長野西自治会 区民防災訓練への参画【令和5・6年度:ステップ④】 ・令和5年度 令和5年6月25日:出席者(プロジェクト)2名 ・令和6年度 令和6年11月10日:出席者(プロジェクト)2名 ・災害時要配慮者となる住民宅を支援者が訪問し、一次集合場所や避難所までの移動を支援。長距離の移動が困難な要配慮者には、車いすを使って	④正・副評議員と見守りサポート委員との事前合同会議等、事前調整を実施された。区民の防災に対する意識を高め、災害時要配慮者と支援者が地域とつながる訓練を毎年実施されており、モデ	④ a・b・c

⑤インクルパーク愛荘リニューアルオープンイベント	支援。避難集合後、ダンボールトイレ作りの体験(令和6年度)。 ⑤インクルパーク愛荘リニューアルオープンイベント【令和5年度:ステップ②】 ・令和5年7月23日:出席者(プロダクト)7名 ・住民一人ひとりの防災意識の向上をテーマとし、以下の3つの展示ブースを設置する。 1. 防災備蓄の啓発資料と試食品の配布(※資料と試食品をそれぞれ300セット用意) 2. 防災便利グッズ(携帯用浄水器)の実演 3. 防災グッズ(新聞スリッパ)の手作り体験	ル先進事例となっている。 ⑤親子連れの住民が多数参加、子どもと保護者が一緒に防災を知る・学ぶ機会をつくることができた。展示ブース準備の中で「東京備蓄ナビ」や「携帯浄水器」の活用について、事務局側も新たな知識を得ることができ、今後の防災学習のバリエーションを広げることにつながった。 ⑥各自治会の取り組み状況や危機管理意識等を把握でき、今後の福祉防災に関する各自治会へのアプローチやモデル地域選定等に活用できる調査結果を得ることができた。	⑤ c
⑥自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査	⑥自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査【令和5年度】 ・実施期間:令和5年5月30日～7月13日 ・対象:区長・総代、民生委員・児童委員・主任児童委員、福祉推進委員 ・回答率:全体155名/219名=70.78% ・町内各自治会の取り組み状況や危機管理意識を把握し、町行政や関係機関団体等が協働して福祉の視点に立った防災力を高める取り組みを創出・推進するためのアンケートを実施。	⑥ a・b・c	⑥ a・b・c
⑦地域の防災力アップ研修会	⑦地域の防災力アップ研修会【令和5年度:ステップ①・②】 ・令和6年3月9日:参加者57名 ・地域防災アドバイザー笠原氏の講演、HUGの演習、行政・社協からの防災支援に関する情報提供、アンケート調査結果の報告。	⑦自主防災組織の重要性等について改めて認識する機会や防災支援に関する情報提供、アンケート調査結果報告の時間を設けることができた。参加者からは「今回のような研修を継続してほしい」という声が多くあり、回数を重ねて質を高めていきたいといったニーズを参加者から確認することができた。	⑦ c

⑧ 防災ゲーム (DIG・HUG) の体験を通したきっかけづくり	⑧防災ゲーム(DIG・HUG)の体験を通したきっかけづくり【令和6・7年度:ステップ①】 ・見守りサポート会議実施自治会や新興住宅地が占める自治会等に、DIG(災害図上訓練)や HUG(避難所運営ゲーム)等の体験を通して、福祉防災活動へのきっかけをつくる。 ・令和7年2月22日:目加田自治会・DIGの体験 ・令和7年6月予定:沖自治会・DIGの体験	⑧自治会への働きかけ・きっかけづくりとして、防災ゲームの活用は有効。ゲームを指導できる職員の育成が課題。	⑧ a
⑨福祉防災に関する体験・学習を通した啓発	⑨福祉防災に関する体験・学習を通した啓発【令和4・5・6年度:ステップ②】 ・町内の学校、イベント等において、ダンボールトイレ・新聞紙スリッパ作り等の防災体験・学習を実施。 ・令和6年度:5箇所	⑨災害・防災への関心が高まっており、学校関係を中心に子どもへの防災体験・学習の指導依頼が増加した。	⑨ c
⑩災害時要配慮者を含めた防災避難訓練の実施	⑩災害時要配慮者を含めた防災避難訓練の実施【令和6・7年度:ステップ④】 ・令和6年9月29日:ふれあい共同作業所と愛知川地区の住民と合同で防災避難訓練を実施。 ・令和7年10月予定:島川自治会にて独自の災害時サポート体制に基づいた防災避難訓練を実施予定。	⑩長野西自治会をはじめ、災害時要配慮者を含めた避難訓練に取り組まれるモデル事例ができてきている。事例を他地域に紹介する中で他自治会の活動につなげていく等、広がりが期待される。	⑩ a・c

◇今後の取り組みに向けて

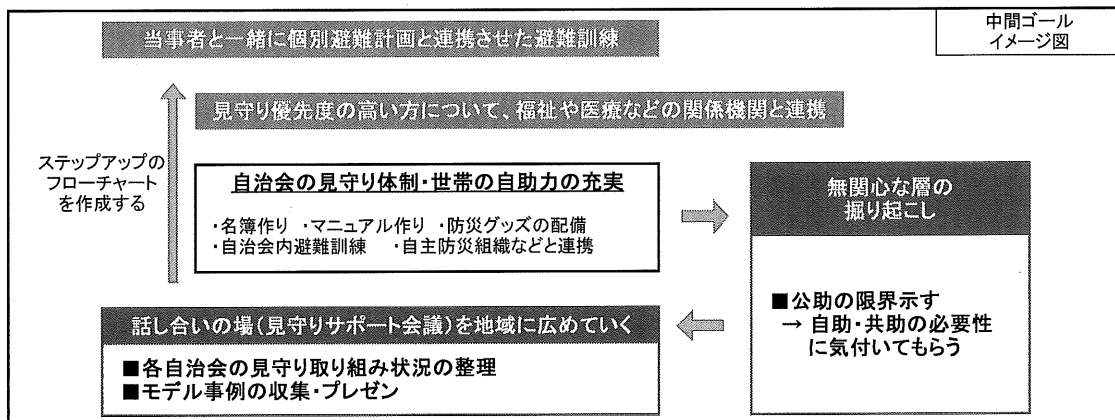
5年目（最終年度）の目標（到達点）	課題となること
・自治会での見守りサポート会議や防災訓練において、福祉防災に関する要素（災害時要配慮者を含めた避難訓練 等）を取り入れられるように、防災研修や体験メニューを作成する。 - また、「誰も取り残さない」との目標へ進めるため、特に近隣住民が助け合えるしくみや活動を住民と関係者が考え、災害時要配慮者一人ひとりに合わせた個別避難計画づくりを進めるためのモデル活動を検討する。 ・企業・事業所と協働できる福祉防災に関する活動（災害ボランティアセンターや自治会との協働 等）を検討・提案する。 ・各自治会への福祉防災に関するアプローチを進める上で、アンケート調査結果を活用（自治会の基礎資料 等）して進める。	・防災研修や体験を指導できる人材（住民・社協職員）の育成・養成。 ・専門職と地域をつなぐ人材の不在。 ・アンケートの集計・内部分析はできているが、どこまでの分析を行うかの再検討。 ・プロジェクトでの取り組みに事務局職員だけでなく、推進委員も参加できる工夫。

福祉防災プロジェクト 到達目標のイメージ

【究極ゴール】 『誰も取り残さない地域』の実現！！！！

【中間ゴール】

- STEP ⑤ 当事者と一緒に個別避難計画と連携させた避難訓練の実施
- STEP ④ 地域内でできる『誰も取り残さない』をテーマにした避難訓練の実施
- STEP ③ 見守り体制が整った地域と福祉・医療専門職とのつながりが持てる取組み
- STEP ② 防災活動などに無関心な層の掘り起こしに向けた取組み
- STEP ① 地域で『普段からの見守り』や『防災』について話し合う場を広げる



■アンケート実施後のねらい

愛荘町内各自治会の福祉防災力の向上

- ・地域住民の防災意識の向上
- ・地域の防災活動や避難行動要支援者について考える場を持つ
- ・自治会の名簿作成（避難行動要支援者の把握）
- ・地域と要配慮者と関係機関とが協働した訓練を行う

■アンケートの構成

自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査 【 区長・総代様向け 】

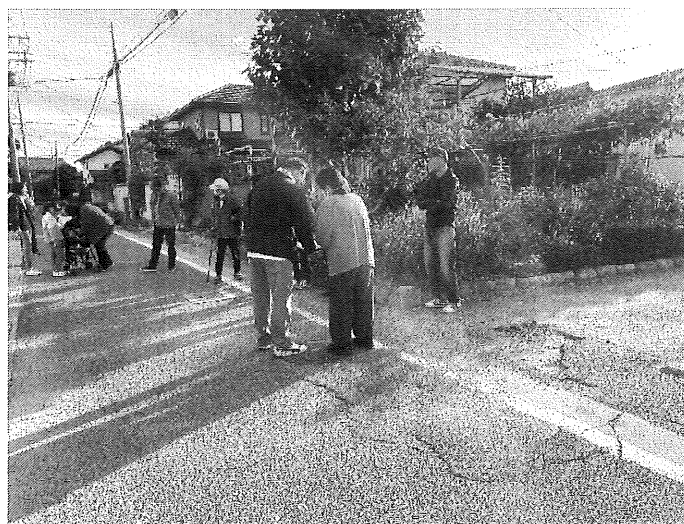
分類	問	質問内容
自治会内の 防災活動に 関するアン ケート	1	自治会の災害リスクに関する把握
	2～6	自主防災組織・防災計画・マニュアル・訓練などの取り組み状況
	7～10	避難行動要支援者の把握・支援方法
	11	自治会で実施するその他の防災活動
	12	自治会内での課題
	13	自治会の防災活動に今後必要なこと
回答者ご自 身の防災意 識に関する アンケート	1～2	被災経験の有無
	3～4	現住所地の安全性・危険性に関する意識
	5～8	災害に備えた話し合い（家族／地域住民）
	9～10	ハザードマップの活用
	11～13	防災用品の備蓄
	14	被災3日目までの防災活動
	15	自助・共助のための日常からの取り組み
	16～17	危機意識（回答者自身／地域住民）
	18	災害への備えに関して心配なこと
	19	これから必要な防災活動

防災意識に関するアンケート調査 【 民生委員・児童委員様 / 福祉推進委員様向け 】

分類	問	質問内容
回答者ご自 身の防災意 識に関する アンケート	1～2	被災経験の有無
	3～4	現住所地の安全性・危険性に関する意識
	5～8	災害に備えた話し合い（家族／地域住民）
	9～10	ハザードマップの活用
	11～13	防災用品の備蓄
	14	被災3日目までの防災活動
	15	自助・共助のための日常からの取り組み
	16～17	危機意識（回答者自身／地域住民）
	18	災害への備えに関して心配なこと
	19	これから必要な防災活動

■長野西防災訓練

実施日:令和 6 年11月10日(日)



「中間ゴール」各ステップの取り組み進捗状況

	令和6年度		結果	令和7年度 予定
	調整状況			
ステップ① 地域で『普段からの見守り』や『防 災』について話し合う場を広げる	★ステップ①④①(中) ・副区長に相談。見守りサポート会議or評議員会でのゲーム (DIG・HUG)の体験について提案。	★ステップ①④②(目加田) ・赤十字奉仕団員を対象にDIGを令和7年2月22日実施。	★ステップ①④①(中) ・見守りサポート会議メンバー(十評議員)でDIGを令和7年6月に実施予 定。	
ステップ② 防災活動などに無関心な層の掘り起こ しに向けた取り組み		●令和6年7月31日「あいしよう福祉祭団」 ・児童を対象に防災士・笠原氏より災害・防災クイズ、防災保存食、避難 所運営ゲーム体験を指導。 ●令和6年9月11日「長瀬地域総合センター自主活動学級」 ・児童を対象に防災クイズ、ダンボールトイレの使い方、新聞紙スリッパ 作り体験を指導。 ●令和6年12月10日「愛知高等学校・防災学習」 ・生徒を対象に災害のお話(熊登半島地震)、新聞紙スリッパ作り体験を指 導。 ★令和7年1月15日「愛知小学校ふれ愛フェスタ2025」 ・防災グッズ作成ブースを担当、児童を対象に新聞紙スリッパ作りの体験 を指導。 ●令和7年2月18日「桑荘中学校・防災学習」 ・生徒を対象に災害・防災に関するお話をくらし安全環境課と共に指導。	★(愛知川ニュータウン) ・字独自の要支援者名簿を町の要支援者登録に移行予定。区民を対象とし た防災訓練・研修を実施したいと考えられている。	
ステップ③ 見守り体制が整った地域と福祉・医療 専門職とのつながりが持てる取組み	●「福祉関係者地域連携会議」・「包括的支援会議」にて、個別 避難計画を後出し、モデル活動を企画する。※令和5年度に実 施。			
ステップ④ 地域内でできる『誰も取り残さな い』をテーマにした避難訓練の実施	★ステップ④②②(島川) ・副区長に要支援者を名付た避難訓練の実施について提案。令和 6年12月28日、区長・副区長・民生委員・社団職員2名にて打 合せを行う。今後、見守りサポート会議等で具体的な内容の調整 を進める。	★ステップ④①①(長野西) ・令和6年11月10日、長野西防災訓練に参加。ダンボールトイレ作りの体 験を指導。 ●ステップ④②②(愛知川) ・令和6年9月29日、ふれあい共同作業所と愛知川地区の住民と合同で防 災訓練を実施。	★ステップ④②②(島川) ・島川独自の災害時サポート体制に基づいた避難訓練を令和7年10月12 日に実施予定。	
ステップ⑤ 当事者と一線に個別避難計画と連携さ せた避難訓練の実施	●ステップ③と④を進行中。 ※ステップ⑤は③・④が進まない実施につながらないため。			

令和4年度 福祉防災プロジェクト 到達目標のイメージと具体的取り組み内容

【究極ゴール】

『誰も取り残さない地域』の実現！



【中間ゴール】

STEP ⑤ 当事者と一緒に個別避難計画と連携させた避難訓練の実施

STEP ④ 地域内でできる『誰も取り残さない』をテーマにした避難訓練の実施

STEP ③ 見守り体制が整った地域と福祉・医療専門職とのつながりが持てる取組み

STEP ② 防災活動などに無関心な層の掘り起こしに向けた取組み

STEP ① 地域で『普段からの見守り』や『防災』について話し合う場を広げる

■ 取り組み内容

(地域と支援機関をつなぐ)

① (案)

特定の当事者もしくは自治会にフォーカスし、先進的モデル事例を作る。

※モデル地域候補:

・長野西 ・東円堂 ・島川
・山川原 ・川原 ・蚊野



■ 取り組み内容

(土台づくり)



① ※現在進行中

町内自治会の現状を把握するため、全自治会を対象にアンケート調査を行う。(区長・民生委員)

② ※現在進行中

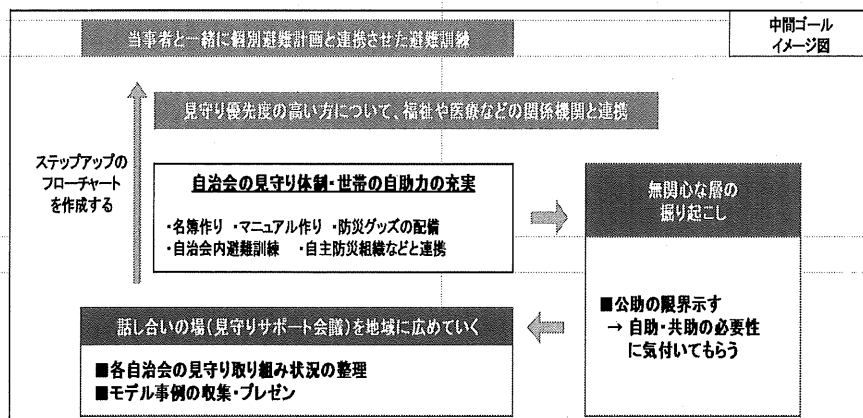
比較的若い世代の多い新興住宅地域で、防災活動の基本的な取組みを進める。

※モデル地域:

ジョイフルタウン秦荘東

③ (案)

親子で参加できる防災を学ぶイベントの開催





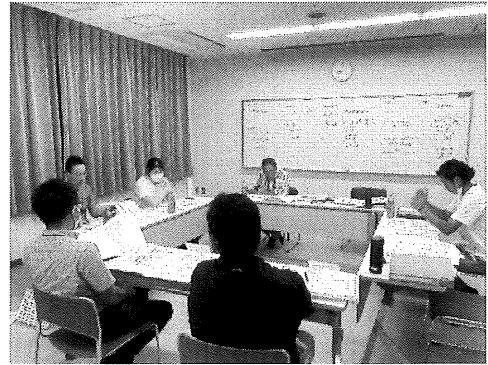
第3次地域福祉活動計画 福祉防災プロジェクト 令和5年度 活動報告

1. 推進委員会メンバー

- 【推進委員】 森野昭二座長、本道康介委員
青木葉留実委員、青木隼人委員
【事務局】 岡村係長、藤田所長、重永主任
山下主任、溝上

2. 委員会開催日

職員チーム会議：2023年4月21日（金）、9月14日（木）
推進委員会：2023年5月16日（火）、9月26日（火）



3. プロジェクト活動内容

2023年6月25日（日）8:00～10:00 長野西自治会 区民防災訓練への見学参加

【訓練の概要】

- 08:00～ 区長より防災無線にて訓練開始の号令
08:30～ 各組に応じた一次集合場所に集まり安否確認
→ ふれあいスポーツ公園（避難所想定）に集合し、安否情報を集約
09:20～ 全員避難・安否確認完了
消防署より 講評
実技指導 （1）簡易担架作成
（2）応急手当（①圧迫止血 / ②骨折・脱臼の処置）
10:00 終了



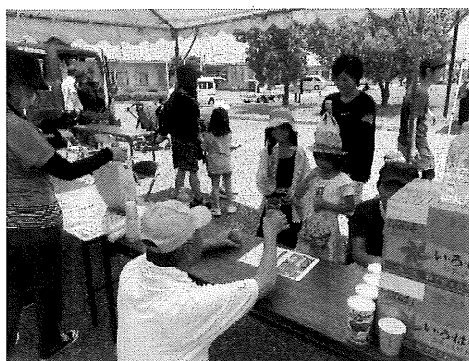
- ・今回の訓練実施に向けて、各組長さんが手分けして全住民宅を訪問し、当日の訓練の案内と、訓練に参加するか否か確認に回られている。消防署とも事前打合せをし、事前準備にも時間をかけられている。
- ・避難行動要支援者の移動手段を確保するために車いすを用意して訓練に臨んでいることに対して、消防署も評価されていた。
- ・これから5年かけて区民防災訓練をレベルアップさせていく計画。今年度はその為の課題の洗い出しをするための訓練。
- ・若い世代も比較的多く参加されていた。これまでの活動に加えて防災活動をしていくのは、負担も多くなり、「こんなに大変ならもう参加したくない」と思われる可能性もあり、そうなっては本末転倒。日常生活の中やこれまでの活動の中に、少し防災の視点を取り入れた楽しめる活動が理想。
- ・訓練の途中で水分を持参されていない親子が自宅に戻られた。来年度以降は災害用持出品を持って避難をするというオペレーションを入れても良いのではないかな。
- ・福祉防災プロジェクトでは、避難行動要支援者を普段支援されている福祉・医療関係者にもこのような自治会の防災訓練に参加してもらえると良い。

【出展の概要・目的】

- ・住民に広く『防災』や『地域活動』に対する関心を持ってもらう機会を提供する。
- ・住民一人ひとりの防災意識の向上をテーマとし、以下の3つの展示ブースを設置する。

① 防災備蓄の啓発資料と試食品の配布 (※資料と試食品をそれぞれ 300 セット用意)**【出展内容】**

- ・スマートフォンから東京都庁のホームページ(東京備蓄ナビ)にアクセスし、日常備蓄の目安量を手軽に算出する体験。
 - ・防災意識の啓発資料と備蓄食品の試食品を参加者に提供。
- (※資料 150 部、試食品 270 セット配布)

② 防災便利グッズ (携帯用浄水器) の実演**【出展内容】**

- ・携帯浄水器の使用方法を実演し、参加者に浄水を体験してもらう。
- ・希望者には 浄水前 / 浄水後 の味見比較を体験してもらう。

③ 防災グッズ (新聞スリッパ) の手作り体験**【出展内容】**

- ・災害時に必要となるグッズを家庭にあるもので代用する体験として、新聞スリッパの手作り体験を行う。

イベント当日は暑い中にもかかわらず、多くの親子連れの住民さんがオープニングイベントに参加してくださった。福祉防災プロジェクトのブースにも、試食品の配布をきっかけに、ブース展示にまで足を運んでくださる方が多くおられ、資料 150 部、試食品 250 セットを配布することができた。子どもに喜んでもらえるような体験コーナーを作ること、保護者の方も一緒に防災を学んでくださる姿が見られたことが何よりの収穫だったのではないかな。

また、今回のイベントを企画したことで、『東京備蓄ナビ』や『携帯浄水器』の活用について、事務局側も新たに知識・知恵得ることができ、今後の防災学習のバリエーションを広げることにもつながった。

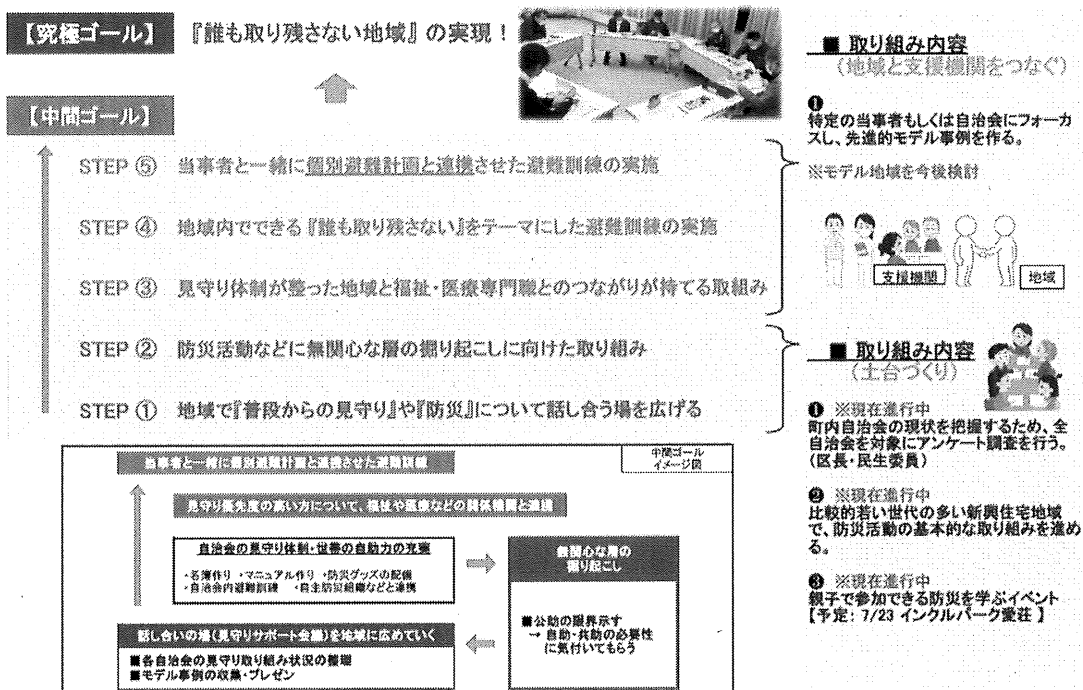
自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査の集計結果の分析

【アンケート回答率】

全体 : 155名/219名 = 70.78 %

○ 区長・総代 様	52名/61名 = 85.25 %
○ 民生委員・児童委員・主任児童委員 様	52名/58名 = 89.66 %
○ 福祉推進委員 様	51名/100名 = 51.00 %

令和5年度 福祉防災プロジェクト 到達目標のイメージと具体的取り組み内容



■ステップ③～⑤において支援するモデル地域の選定方法

- ・4小学校区からバランスよく気になる地域をピックアップ。

秦荘東 : 目加田【自主防災組織などの体制が整っている】

斧磨【土砂災害の危険性が高い/2～3世代同居の割合が高い】

安孫子【自主防災組織などの体制が整っている】

秦荘西 : 沖【住んでいる地域が危険と感じていると回答(区長/民生委員)/自主防災組織などの体制が整っており、マニュアルの見直しの必要性も感じておられる】

下八木【住んでいる地域が危険と感じていると回答(区長)】

島川【自主防災組織などの体制が整っている/平常時から地域で要配慮者に支援されている】

愛知川東 : 東円堂【平常時から避難行動要支援者名簿を活用した見守り活動をされている/防災減災支援隊など独自の防災活動を精力的に実施されている】

愛知川 : 市【自主防災組織などの体制が整っている】

長野東【自主防災組織などの体制が整っている】

長野西【自主防災組織などの体制が整っている/5年計画で避難行動要支援者に焦点を当てた防災活動を検討されている】

長野新町【地域活動が進んでおらず、これから必要になってくる地域】

磯部【住んでいる地域が危険と感じていると回答(区長)】

川原【住んでいる地域が危険と感じていると回答(区長)】

山川原【住んでいる地域が危険と感じていると回答(区長/福祉推進委員)】

【研修会開催の目的とねらい】

- ・アンケートの集計結果の報告
- ・自主防災組織の平常時の活動支援
- ・災害ボランティアセンターの機能の周知
- ・災害支援ボランティア登録者の養成

【研修会の内容】

1. 笠原恒夫講師(地域防災アドバイザー / 防災士)より

- ・災害時における『自治会』『自主防災組織』の重要性について
- ・演習 HUG(避難所運営ゲーム)

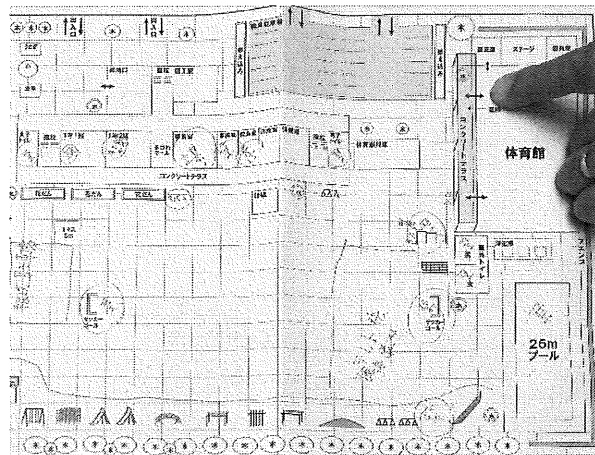
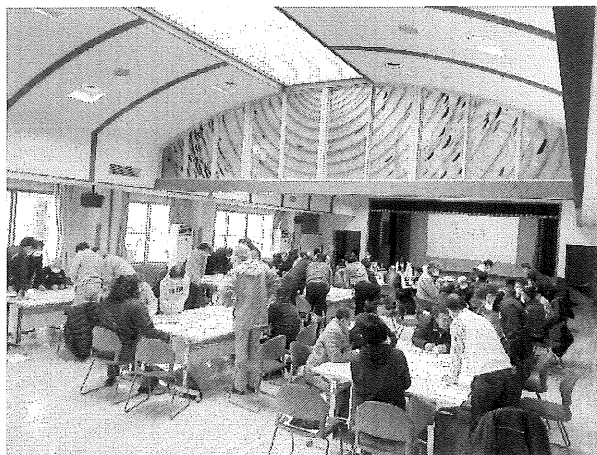
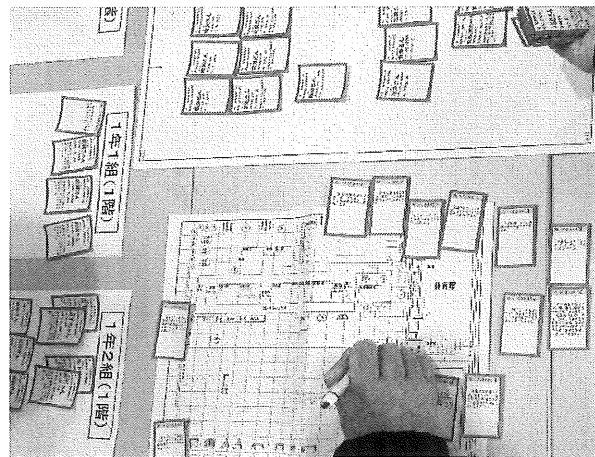
2. 愛荘町行政・愛荘町社会福祉協議会より

- ・自主防災組織の結成・活動支援について
- ・災害ボランティアセンターの機能と災害支援ボランティアについて
- ・自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査結果について

【結果】

- ・参加者: 57名(22自治会) + 社協職員5名
- ・災害支援ボランティア新規登録者: 4名

講師は滋賀県の地域防災アドバイザーで防災士の笠原恒夫氏にお願いをし、HUGの演習を実施した。自主防災組織の重要性などについて改めて認識をしていただくとともに、行政や社協からできる支援についても情報提供をすることができた。福祉防災プロジェクトでは、区長・総代様などの自治会関係者を対象とした防災に関するアンケートを実施していたので、集計を報告する時間も設けた。参加者からは「今回のような研修を継続してほしい」という声も多くあり、回数を重ねて質を高めていきたいといったニーズが住民さんにあることに気付くことができ、大変心強く感じた。



令和6年度上半期「福祉防災プロジェクト」報告

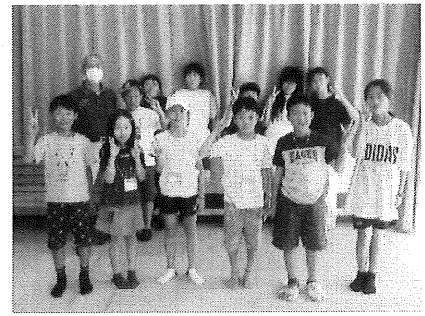
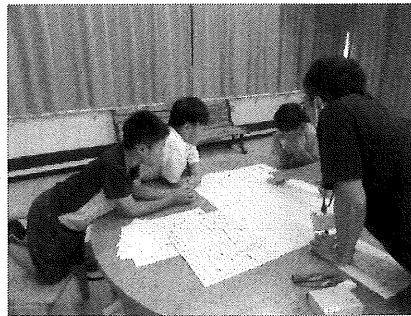
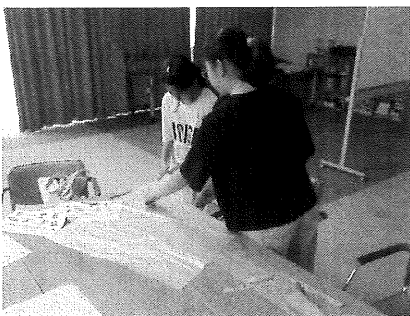
昨年度(令和5年度)の取り組みを推進委員とともに振り返り、特に「自治会内の防災活動及び防災意識に関するアンケート調査」結果概要の共有を行いました。

到達目標の究極ゴール「誰も取り残さない地域の実現」に向けて、中間ゴール5つの各ステップに沿った具体的な取り組みの検討・実施を進めています。

■社協が主催・関わった福祉防災の取り組み(令和6年4月～10月)

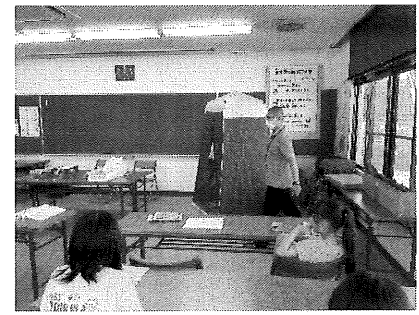
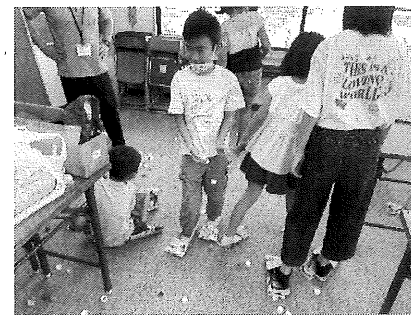
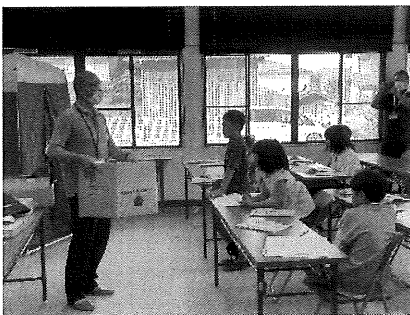
●あいしょう福祉探偵団(令和6年7月31日実施)

小学生4～6年生を対象に実施。防災士の笠原恒夫さんを招き、災害・防災クイズ、新聞紙で作った皿で防災保存食を食べる、避難所運営ゲームの体験等を通して、災害時の備えを中心に楽しく学びました。



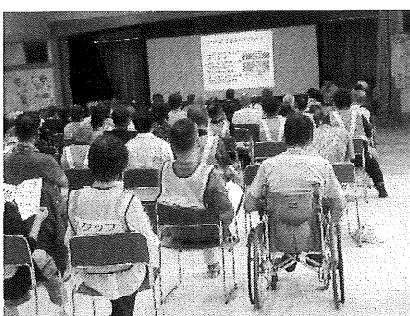
●長塚地域総合センター自主活動学級・防災体験学習(令和6年9月11日実施)

社協職員が講師となり、小学生を対象に防災体験学習を実施。防災クイズや段ボールトイレの使い方、新聞紙スリッパ作り等の体験を通して、「災害時に必要なこと」等について楽しく学びました。



●ふれあい共同作業所と近隣地域との合同防災訓練(令和6年9月29日実施)

ふれあい共同作業所と愛知川地区の住民と合同で防災訓練を実施。区長、役員、作業所・社協職員、町福祉課・くらし安全環境課が事前の打合せ会議の上、初めての合同訓練を計画・実施。



「中間ゴール」の各ステップに沿った具体的な取り組み（令和6年度）

ステップ①

地域で『普段からの見守り』や『防災』について話し合う場を広げる

- ①見守りサポート会議を通して、福祉防災に関する話し合いやゲーム(DIG・HUG)等の体験を進める。

方 針: 「沖」、「下八木」、「長野東」、「山川原」をモデル地域候補として、提案していく。

- ②新興住宅地が占める自治会や福祉防災の進んでいない自治会に対し、ゲーム(DIG・HUG)の体験を通して、活動へのきっかけをつくる。

方 針: 「斧磨」、「安孫子」、「長野新町」、「川原」をモデル地域候補として、提案していく。

ステップ②

防災活動などに無関心な層の掘り起こしに向けた取り組み

方 針: 町主催イベント等で機会やタイミングが合えば、福祉防災に関するブース等の出展を通して啓発していく。

ステップ③

見守り体制が整った地域と福祉・医療専門職とのつながりが持てる取組み

方 針: 社協主催の「福祉関係者地域連携会議」、「包括的支援会議」にて、モデルの取り組み(障がいのある方の避難について、地域や関係者でできることを考える等)を検討中。上記の進捗状況に合わせて進める。

ステップ④

地域内でできる『誰も取り残さない』をテーマにした避難訓練の実施

- ①長野西自治会の避難訓練に今年度も継続して関わる。

方 針: 打合せや訓練に参画する(推進委員は当日訓練のみ)。

- ②新たなモデル自治会を島川自治会とする。

方 針: 島川自治会の区長、民生委員等に訓練実施への相談を進める。

ステップ⑤

当事者と一緒に個別避難計画と連携させた避難訓練の実施

方 針: ステップ③と④が進まないと⑤は実施できない。ステップ③・④の進捗状況に合わせて進める。